

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【ボランティアを対象とした実践的研修】

受託団体名 NPO大泉国際教育技術普及センター

1 事業の趣旨・目的

ブラジル人をはじめとする南米系外国人が集住している本地域においては、日本語教育のより一層の推進とともに、その質を高めるための指導者の育成が重要不可欠である。指導者不足はどの日本語教室も共通に抱える課題である。

本事業では、実際現場での教授法や指導のポイントやサポート方法などを日本語教育のブロの手を借りて具体的に学ぶことにより、日本語指導者のスキルアップを図るとともに、実践的な指導力を身につけ、地域で広く活躍できる人材を育成すること、さらに即戦力につなげることを目的とする。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
6月12日	NPO 大泉国際教育技術普及センター 会議室	野山 広 拝野寿美子 江副 隆秀 戸澤江梨香 中西 智美 高野 祥子 齋藤 俊輔 阿部勇次郎 堀江 幸男	・指導者養成講座から実践講座に移行するにあたりどのようにするか。 ・実践の際のグループ分けについて。 ・質疑応答	・指導者養成という講座の後に引き続き実践講座に移行するため、どのようにすればスムーズに移行できるか。 ・グループ別のローテーションを明記する。 ・続けて4時間になるためモチベーションを保つにはどうするか。
11月6日	NPO 大泉国際教育技術普及センター 会議室	野山 広 拝野寿美子 江副 隆秀 戸澤江梨香 中西 智美	・前半を終えた生徒達の状態を報告。 ・後半もこの体制で進むか。 ・質疑応答	・江副・・・皆休まず、教える側としても、とてもやりがいを感じている。 ・常に前向きな姿勢が見受けられるので、この講

		高野 祥子 齋藤 俊輔 阿部 勇次郎 堀江 幸男	座はとても意義のある講座となっている。 ・生徒側も大変勉強になっている。との感想を聞いている。 ・日本語を学んでいる外国籍の人たちの現状を各先生方より聞く。
--	--	-----------------------------------	--

【写真】



3 研修講座の内容について

(1) 研修講座名 「プロに学ぶ！新・指導法」実践講座 (修了証発行)

(2) 研修の目標

ブラジル人をはじめとする南米系外国人が集住している本地域においては、日本語教育のより一層の推進とともに、その質を高めるための指導者の育成が重要不可欠で

ある。指導者不足はどの日本語教室も共通に抱える課題である。

本事業では、実際現場での教授法や指導のポイントやサポート方法などを日本語教育のプロの手を借りて具体的に学ぶことにより、日本語指導者のスキルアップを図るとともに、実践的な指導力を身につけ、地域で広く活躍できる人材を育成すること、さらに即戦力につなげることを目的とする。

(3) 受講者の総数 ブラジル 5 人 日本 11 人

(4) 開催時間数(回数) 40 時間 (20 回)

(5) 参加対象者の要件

2年以上の日本語指導の経験を有するものであること)

(6) 受講者の募集方法

地域のブラジル人商店にポスターを掲示および配布でよびかけるほか、知人、友人など人的ネットワークを駆使する。

(7) 研修会場

ア 講義 日伯学園 邑楽町校舎

イ 実習 日伯学園 邑楽町校舎

(7) 使用した教材・リソース

ブラジル日本語センター

『1, 2, 3 日本語で話しましょう (教師用指導書)』

新宿日本語学校

『日本語教授法の一考察』、『新実用日本語』、『江副ノート』、『重箱カード』

創拓社

『日本語の助詞は二列』

File Maker (但し、クラスでは試行版を利用するので無料)、

その他

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
6月12日 16:00～ 18:00	理論講義 「日本語の5技能」 「文字学習について」	新宿日本語学校 校長 江副 隆秀 他	15名

6月19日 16:00～ 18:00	理論講義 「可視化された日本語の文法構造」①	新宿日本語学校 校長 江副 隆秀 他	15名
6月26日 16:00～ 18:00	理論講義 「可視化された日本語の文法構造」②	新宿日本語学校 校長 江副 隆秀 他	15名
7月3日 16:00～ 18:00	理論講義 「可視化された日本語の文法構造」③	新宿日本語学校 校長 江副 隆秀 他	15名
7月10日 16:00～ 18:00	実習(グループに分かれ指導者と受講者を交代しながら実践) 重箱カード使用・ひらがな	新宿日本語学校 講師 森 恭子 他	15名
7月17日 16:00～ 18:00	実習(グループに分かれ指導者と受講者を交代しながら実践) 重箱カード使用・カタカナ	新宿日本語学校 校長 江副 隆秀 他	15名
7月24日 16:00～ 18:00	実習(グループを組みなおし、指導者と受講者を交代しながら実践)重箱カード使用・漢字①	新宿日本語学校 講師 森 恭子 他	15名
7月31日 16:00～ 18:00	実習(グループに分かれ指導者と受講者を交代しながら実践) 重箱カード使用・漢字②	新宿日本語学校 校長 江副 隆秀 他	15名
8月28日 16:00～ 18:00	実習(グループに分かれ指導者と受講者を交代しながら実践) 「に」「で」「を」	新宿日本語学校 校長 江副 隆秀 他	15名

8月29日 16:00～ 18:00	実習(グループに分 かれ指導者と受講者 を交代しながら実践) 「数」の教え方	新宿日本語学校 校長 江副 隆秀 他	15名
9月4日 16:00～ 18:00	実習(グループを組 みなおし指導者と受 講者に分かれ実践) 「時数詞」	新宿日本語学校 講師 森 恭子 他	15名
9月11日 16:00～ 18:00	実習(グループに分 かれ指導者と受講者 を交代しながら実践) 「敬語」	新宿日本語学校 講師 森 恭子 他	15名
9月18日 16:00～ 18:00	実習(グループに分 かれ指導者と受講者 を交代しながら実践) 「紹介の仕方」	新宿日本語学校 講師 森 恭子 他	15名
9月25日 16:00～ 18:00	実践(グループに分 かれ指導者と受講者 を交代しながら実践) 「文レベル」	新宿日本語学校 講師 森 恭子 他	15名
10月16日 16:00～ 18:00	実践(グループに分 かれ指導者と受講者 を交代しながら実践) 「教科書に出てくる単 語・文」	新宿日本語学校 講師 森 恭子 他	15名
10月23日 16:00～ 18:00	実践(グループに分 かれ指導者と受講者 を交代しながら実践) 「文章の書き方」①	新宿日本語学校 講師 森 恭子 他	15名
10月30日 16:00～ 18:00	実践(グループに分 かれ指導者と受講者 を交代しながら実践) 「文章の書き方」②	新宿日本語学校 校長 江副 隆秀 他	15名
11月6日 16:00～ 18:00	実践(グループに分 かれ指導者と受講者 を交代しながら実践)	新宿日本語学校 校長 江副 隆秀 他	15名

	「文章の書き方」③		
11月20日 16:00～ 18:00	実践(グループに分 かれ指導者と受講者 を交代しながら実践) 「文章の書き方」④	新宿日本語学校 校長 江副 隆秀 他	15名
2月6日 16:00～ 18:00	実践(グループに分 かれ指導者と受講者 を交代しながら実践) 「文章の書き方」⑤	新宿日本語学校 校長 江副 隆秀 他	15名

(10) 講座の評価

- ① 受講生に対するアンケート・・・大変勉強になった、今まで自分で教えていた方法を覆す教授法で本当に目から鱗でした。・とてもわかりやすく、丁寧な教え方で、机上だけではなく実践ができたことは即戦力として使えます。
・教える事が楽しみになってきた。・早く教えたいと思った。・ステップアップしたいので次回もこの講座ができることを期待する。・指導者養成講座のすぐ後に実践できるのは正直キツイが、達成感があった。
- ② 実施主体からの研修内容結果評価・・・初めての試みで、指導者養成講座の後すぐに実践講座に移行するという事は、受講者だけでなく教授者にとっても大変だったと思われる。今まで教わる側にいた生徒達にとっても大変刺激になったと考えられる。結果評価はこの講座に参加した後に教えることのできる講座に参加することによって評価が出るものと考えられる。
- ③ 実施主体からの外国人体制等今後の計画・・・外国人教育における、今後の計画としては、同様の研修を継続的に実施することが望まれる。今回は、「情報」と「述部」の間の二列の助詞を中心に実施したが、今後は、「それ以外の助詞」、「動詞の教授法」、「漢字の教授法」、「作文指導」とレベルを上げながら支援していく予定である。具体的には、2011年4月以降は、ボランティア活動としてこれらの研修を継続的に実施する。(実際にボランティア活動として行っている)

(11) 事業の成果

- ① 他事業との連携・・・現在実施しているブラジル人学校での授業等で日本語学習の場面で直接的に学習につながる教育を実施している。また、これらの知見を背景に、

進学準備・進学指導等を通し、受験というレベルも視野にいて、進学事業にも関連づけている。それが、目標設定と相まって、上級学校への進学意欲を高める結果を生む可能性がある。

- ② **研修後の人材活用**…関連する日本語教育機関のみならず、地域のボランティア活動、個人ベースのクラス活動など日本語教育と関連する現場で、研修後の人材を活用する。

(12) 今後の課題…まだ初級レベルの教授法を取得したばかりのため、引き続き次のレベルにステップアップを望む声が多いので、継続して、同じ指導者による講座開催が必要であるとする。